

VMware vSphere with Operations Management 5.5 の新機能

VMware vSphere® with Operations Management™ 5.5 は、業界をリードする仮想化プラットフォームの最新リリースであり、パフォーマンスとキャパシティの管理機能を備えています。本リリースには、次の新機能や機能拡張が含まれています。

コンピューティング

- **スケーラビリティ**：vSphere 構成において、物理 CPU、メモリ、および NUMA ノードの上限が以前のバージョンの 2 倍になりました。仮想ディスク ファイルは、64 TB まで拡張できます。
- **VMware vSphere Reliable Memory**：ハイパーバイザーなど、クリティカルな vSphere のコンポーネントを、サポート対象のハードウェア上の信頼性の高いメモリ領域に配置します。これにより、修正不可能なメモリ エラーからコンポーネントを保護することができます。

ストレージ

- **vSphere Flash Read Cache**：サーバ内蔵のフラッシュを仮想化し、高性能の読み取りキャッシュ レイヤーを提供することによって、アプリケーションの遅延を大幅に低減します。

可用性

- **vSphere App HA**：これまでになくレベルの可用性を実現します。vSphere がアプリケーションやオペレーティング システムの障害を検出し、リカバリを行うことが可能になります。市場で最も一般的なアプリケーションをサポートしているほか、VMware のパートナーは、API を利用して自社のアプリケーションをサポートすることができます。
- **vSphere Replication**：複数の時点のスナップショットを作成することで、より細やかなリカバリを実現します。各 VMware® vCenter Server™ が複数のレプリケーション用アプライアンスをサポートするため、拡張性がさらに広がります。vSphere Replication は、VMware vSphere Storage vMotion® および VMware vSphere Storage DRS™ をサポートするようになりました。

- **VMware vSphere Data Protection™**：vCenter Server を使用せずに、ホストに直接リストアすることが可能になりました。仮想マシン単位に加えて、各仮想ディスク (VMDK) ファイルをバックアップおよびリストアすることが可能になりました。また、vSphere Data Protection アプライアンスを静止状態にすることで、それらのファイルを長期間保持できます。

管理

- **VMware vCenter Single Sign-On**：次世代のシングル サインオン機能を使用して vSphere 環境を簡素化し、より優れたセキュリティを実現します。ユーザーが一度ログインすると、追加認証なしで vCenter Server のすべてのインスタンスまたは関連製品にアクセスできます。

アプリケーション用の新機能および機能拡張

- **Low-Latency Application Tuning**：低遅延を必要とするアプリケーションの要件を満たすために、vSphere をチューニングします。この新しいカスタマイズ機能により、インメモリ データベースなどのアプリケーションで最高のパフォーマンスを実現し、ワークロードに優先順位を設定できるようになります。
- **vSphere Big Data Extensions**：vSphere 上で Apache Hadoop を実行することにより、使用率、信頼性および俊敏性が向上します。vSphere Big Data Extensions は、複数の Hadoop ディストリビューションをサポートします。IT 部門は単一の共通プラットフォーム上で、複数の Hadoop ワークロードの展開、実行、管理をシームレスに行うことができます。

詳細情報

VMware 製品をご購入、または詳細情報については、次の製品 Web サイトをご覧ください。

<http://www.vmware.com/jp/products>